

最近のアベノミクスについての論調で気になる点がある。それは「岩盤のような規制を緩和できない。これでは成長戦略は期待できない。経済はいずれ失速するだろう」というものだ。関連して、「日本経済が持続的な回復を続けるためには、規制緩和や市場開放など積極的に成長戦略を進めていくことが必要だ。残念ながら、その成長戦略で期待するような動きが見られない」という指摘もあちこちで見られる。

安倍政権の下で行われる規制緩和や市場開放のスピードが遅いかどうかは議論の分かれる所だろう。環太



伊藤元重の

ニュースな見方

アベノミクスの成否

民間投資の拡大がカギ

平洋経済連携協定(TPP) 特に遅いとは思われない。この部分は供給サイドをいって効果がすぐに出てくが規制緩和などによってへの交渉参加を早い段階で 今日指摘したいのは、改 意味する。どちらも重要で決めたこと、コメの減反を 革のスピードのことではな あるが、時間軸の上で言え止める方向で動き始めたこ い。マクロ経済の動きを見 ば、当面は需要サイドの方となど、これまでの政権で るときに、需要サイドと供 がるかに重要である。は進まなかった動きが見ら 給サイドをきちつと区別し 規制改革や市場開放など権はスピード感を持って改 るということだ。アベノミ だ。ただ、そうした政策が革を進めてく れるのではな いのかとい う 過度な期待 が、ここに来て失望感を呼 ぶ。クスの第三の矢は、「民間 目に見えるように影響が出ても電力システム改革でんでいるという見方もでき 投資を喚起する成長戦略」 てくるのはそれなりに時 も、大きな投資を呼び込むる。どこの国でも岩盤のよ であるが、「民間投資を喚 間がかかる。特に岩盤のよ ような政策が鍵となる。うな規制を改革することは 起する」という部分は需要 づな規制ということになれ その上でさらに言いたいば、政府の政策だけでなく、 のは、日本の潜在成長力を産業構造や民間企業の行動 高めていくのは、民間の投 資であり、民間の構造調整 までそれに縛られているの であるということだ。政府で、制度を修正したからと であるということだ。政府

（東大大学院 経済学研究科教授）

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。